

はるかかのひまわり

みなさんは、「はるかかのひまわり」を知っていますか。
神戸の町に大きな地震がおきた時、
小学校六年生だったかとうはるかちゃんは、
地震でこわれた家の下じきになって、
なくなってしまうました。

その年の夏、あき地になったはるかちゃんの家のにわに、
たくさんのひまわりの花がさきました。

そのひまわりは、はるかちゃんが、
かわいがっていたオウムにあげていたたねが、
地震でとびちり、めを出してさいたのです。

みんなは、
「はるかちゃんが、ひまわりになってかえってきた。」
と、なみだをながしました。



おお
大きくそだつ「はるかかのひまわり」
こうべし
(神戸市)



みんなで たねまき
こうべし
(神戸市)

はるかちゃんのかぞくや、町の人は、
そのたねをたいせつにあつめました。

そして、つぎの年、町のあちこちに たねをまき、
たくさんのひまわりの花がさきました。

地震で、なにもかも なくしてしまった町の人たちを
「はるかのひまわり」が、はげましてくれたのです。

それから、「はるかのひまわり」は、
日本じゅうの、そして 外国の
さいがいがあつた町におくられて、
力強く 花をさかせつづけています。



げんきいっぱいにさく「はるかのひまわり」



「はるかのひまわり」からとれた
たくさんのたね



ようちえんのわで
めを出す「はるかのひまわり」

みやぎけんけせんぬまし
(宮城県気仙沼市)